

ふつう、田舎にいる親は、盆暮れに子どもや孫たちが帰省して、つかの間だがにぎやかな数日間を過ごすだろう。しかし我が家の盆は、無休で店をはる真夏の真っ最中だし、暮れとお正月は、寒冷地特有の道路凍結で敬遠され、そのどちらにも息子たちは帰省しない。

わたしたちが息子たちのところに、それぞれ足を運ぶ形で、親子が顔を合わすのだが、長男、次男といっしょに会うことが、おそらく3年近くなかったように思う。

なんとか家族全員で会おうではないかということになって、晩秋のある水曜日を提案したら、それが全員の定休日もしくは休養日とうまく合致し、東京目黒にあるわたしの実家の二階で午後3時と、いとも簡単にきまった。

親とすれば、この機会に次男がカノジョを家族全員に紹介するのはどうかと、二つ目の提案をしたのだが、これも気持ちよく承諾してもらった。

82歳の実母(息子たちには祖母)は、おしゃれをして朝からそわそわ、わたしたち夫婦は食材の準備にいそいそ、そして長男家族も正装して、押し含んだ笑顔を見せる。

やがて次男のカップルが登場して、家族8人はにぎやかに一つのテーブルを囲んだ。テーブルのはじっこで、孫と遊ぶわたしの耳に、若い4人のはずんだ声がとどく。トコロテンになって押し出される世代交代の、その実況生中継を見ているようだった。